

中国の新聞印刷機稼働の現状と今後

新聞を印刷する機械は、現在はオフセット輪転機が殆んどを占めていますが、大きさによっていろいろとタイプがあります。

オフセット印刷は新聞記事面が現像されているアルミ材質の版を版胴という円筒の胴に貼り付け、そこにインキと水を供給し、版の画像がブランケット胴のブランケット面に転写され、そこに白紙の巻取紙が通る時にブランケット胴同士の転写圧によって、紙面になります。

その輪転機は版胴の長さや直径によって、全幅倍胴、全幅単胴、半裁倍胴、半裁単胴のほぼ4種類に分けられます。

この業界以外の方には分かりにくいと思いますが、其々の説明を書いていると長くなるので、今回は今後どのタイプの機械が販売の主流になるかとの考えを記したいと思います。

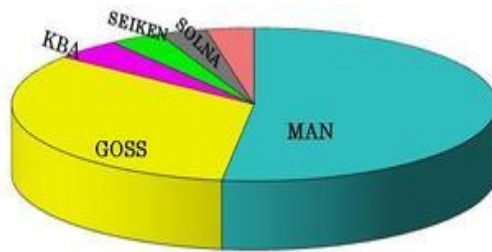
日本の全国紙や県紙は殆んど**全幅倍胴**か最近流行り始めた**全幅単胴**です。

私は日本の新聞業界には詳しくないので、今日は中国の新聞業界に関して記します。

私が2009年上半期現在中国の各新聞社で使用されている機械を集計してまとめたグラフが下のものです。(統計は印刷ユニット数の集計で纏めています)



機種別稼働比率



メーカー別占有比率

これを見ると、中国では半裁倍胴機が過半数を占めています。

メーカー別ではドイツの MAN-ROLAND 社がやはり過半数を占めています。

中国の場合は国土の大きさの割には発行部数は少なく、読売新聞が朝夕刊合わせて900万部と比べて、人民日報紙は全国で180万分位です。

よって、各新聞社も本誌の印刷は数10万部程度であり、ページ数も16～24頁が一般的であり、また本誌だけでなく10種類以上の新聞を毎日印刷していますので、1時間で16万部近く印刷出来る全幅倍胴機よりも7万部程度の半裁倍胴機の方が稼働性が良く、経済的であるとの理由で一番多く使われおります。

今後も日本同様の発行部数減少やページ数減少が中国でも起こっている事、またこれまでの官制新聞意識から利益重視の経営で設備投資に対する考え方が変わった事、国産で性能が良い半裁倍胴機が市場に出てきた事などの理由で、半裁倍胴機が主流になると思われます。

以上

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

このレポートの著作権は田中正昭に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤まりの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう
権利を有します。

【その他】

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤まり、不正解な情報
等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない
ことをご了承願います。